

令和4年度第3回船橋市博物館協議会会議概要及び会議記録

1 開催日時

令和5年2月8日（水曜日）午後0時30分～午後5時00分

2 開催場所

袖ヶ浦市郷土博物館

3 出席者

（1）委員 木原委員 正法地委員 川口委員 寺門委員 吉岡委員

（2）事務局 郷土資料館 金子館長 白石館長補佐 小田主任主事

飛ノ台史跡公園博物館 田久保館長 三浦館長代理

4 欠席者

高見澤委員

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開にあつては、その理由

（1）袖ヶ浦市郷土博物館の視察

常設展示室及び収蔵施設について、担当学芸員からの説明を受けながら視察を行った。

その後、会議室にて視察内容についての質疑応答・意見交換を行った。

非公開：船橋市情報公開条例第26条第1項第3号に該当するため

6 傍聴者数

他市博物館視察のため、傍聴者はなし

7 決定事項

他市博物館視察のため、決定事項はなし

8 議事（主な質疑）

配布資料に基づいて市民学芸員の説明

○ 袖ヶ浦市郷土博物館 稲葉主幹

平成16年度に市民学芸員育成事業を立ち上げ、当初は30名程度を想定していた。令和5年2月時点で高校生を含む43名が活動。

市民学芸員という名称は、単なる「ボランティア」との差異化を意図したもの。

①展示について。自主企画展は、当初、市民学芸員が提供した資料の展示等からスタートしたが、徐々に学びが深まり、市民学芸員の調査報告の展示も行っている。開館 40 周年記念の展示では、図録の文章の一部を市民学芸員が担当し、担当したコーナーの展示解説も行っている。

②自主事業について。コロナの関係で中止になっているものもある。

③グループ活動。例えば、「郷土を学ぶ会」の中には、絵馬調査を続けている市民学芸員もいるが、博物館の調査研究成果につなげられてはいない。「万葉グループ」から派生して、企画展で試みた植物画を描く企画を継続したい有志による「葉月の会」もある。

④体験学習講師（小学生の体験学習対応など）。

質 疑

○田久保飛ノ台史跡公園博物館長

30 名を超えているが、新規の募集はかけているのか。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

一時期、養成講座をストップした。数名ずつの受入れを継続していたが、博物館実習の期間に、一般の人が聞いても良い単元を設けて市民学芸員になってもらった例もある。

○木原会長

定年は？

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

設けていない。規則は一応作っていて、高校生以上としている。

○三浦飛ノ台史跡公園博物館長代理

博物館友の会と市民学芸員の関係・棲み分けはどのように考えているのか。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

サークル的な活動が友の会で、年会費 2,000 円である。博物館の「学び」に重点を置くのが市民学芸員。

○金子郷土資料館長

船橋市では、ふなばし市民大学の生涯学習コーディネーター養成学科・マイスター学科などがあるが、博物館でのボランティアには専門性が求められるとの考えから、現時点で、卒業者が博物館ボランティアになることに直結していない。今後、他市・他館の事例を参照し、市民大OB・OGと博物館の関係について考えたい。

○白石郷土資料館長補佐

展示解説で自説を述べる市民学芸員がいた場合はどのようにコントロールしているのか。

○木原会長

富士山展のテーマや方向性の設定は、市民学芸員の主導か、それとも館側の主導か。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

市民学芸員という名称には賛否両論ある。井口現顧問の（博物館職員）時代に立ち上げた制度。プライドを持って博物館で学んでほしいという思い。一方、校外学習だけ手伝いたい等、部分的に博物館の活動を手伝いたいと思う市民もいる。

市民学芸員のコーディネーター役が居るが、常勤職員だと厳しいので、会計年度任用職員(養成講座受講生の学芸員有資格者)に担当してもらっている。内容面は職員がチェックするが、テーマ設定・資料解説の内容等は、展示を作る段階で意見交換をして決めている。

○川口委員

市民学芸員制度で、これまでに生じた問題・トラブルなどはあるか。事前レクチャーの必要性があることによる職員の負担はどうか。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

困ったと思うことはあるが……。後者について、調べてきた成果を持ってこられることがある。どれを採用するかどうか、という点で悩むことはある。

○正法地副会長

養成講座受講生から市民学芸員になるための審査はしているのか。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

市民学芸員になれないような受講生は、これまでいなかったと思う。新住民が市民学芸員には多い傾向がある。「この人来ないな」と中で言われるような事例はあるが、知識が豊富な方が押し付けることはないし、対外的な場面で代表になってもらう方が仕切る感じにはなっていない。

○寺門委員

養成講座の回数と期間はどのくらいか。また、更新はしているのか。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

1年間で、10回程の実施で、調査方法のレクチャーなどを行っている。登録したがずっと来ない方がいる。更新の必要性はあるかも知れない。

○白石郷土資料館長補佐

異動する行政職員のスパンの短さによって、ボランティアが優位になりすぎる事例はないか。

○木原会長

博物館・ボランティアの信頼関係、博物館を良くしたいという思いがボランティアにあれば、うまく行くのではないか。

資料に基づいて博図公連携事業について説明

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

資料に基づいて、令和3,4年度の事例を紹介。学芸員に公民館勤務経験がある職員が、君津地方社会教育連絡協議会で会って話す機会が多いため、資料貸借などのやり取りがしやすく情報も入る。平成27年度に、県が博図公連携事業をし「もののけ」展を実施。のちに、フォーラムを実施している。

質 疑

○田久保飛ノ台史跡公園博物館長

学校の空き教室など、館以外の資料収蔵スペースはあるのか。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

学校の空き教室は使っていない。(資料に基づき具体的に説明)

○川口委員

建て替えの計画はあるのか。

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

修理の計画はあるが、教育委員会の中での優先順位の関係で進んでいない。

○吉岡委員

市内全校が見学に来るとのことか。(小学校7校・中学校5校)

○袖ヶ浦郷土博物館 稲葉主幹

小学校は全校、来館もしくは出張授業を行っている。

視察後各委員から寄せられた意見

【1】今回の視察についての意見・感想

- ・短い時間だったが、展示・バックヤード共に見学でき、さらに市民学芸員制度など具体的な情報や意見交換が出来よかった。時間があればもう少し聞きたかった。
- ・それぞれの博物館は異なった背景を持っているので、一律に考えられない。それぞれの特性を生かしていると思った。
- ・市民の憩いの場である袖ヶ浦公園の中に位置し、周辺に貝塚、古墳群、神社仏閣などの文化財が存在するという環境が“そではく”にとって素晴らしいロケーションであると感じた。
- ・同市の歴史をさかのぼりながら展示するという常設展の方法には、新鮮さと身近さを印象つけられた。
- ・袖ヶ浦について知ることができた。博物館の大きさや収蔵品の多さにおどろいた。
- ・市民学芸員のお話を聞いたのは参考になった。

【2】袖ヶ浦市郷土博物館の取り組みで、本市が学ぶべき点

- ・市民学芸員の制度が比較的スムーズに両者に受け入れられていることは、それぞれの歩み寄りと努力によるものとみられる。
- ・船橋市で同様にできるかは難しいようだが、それなりの方法もあるのではないかと。
- ・(市民学芸員の)学芸員としての基準をどこに置くか、取り扱うモノが何であるか、もう少し具体的な情報交換が必要であると思われる。
- ・土地柄、地域性による対人関係や接し方などもあるのではないかと。
- ・市民が自ら学ぶ場として博物館を利用しながら“地域づくりの貢献”ができる人材として育てて行くという主旨は学ぶ価値がある。
- ・市民学芸員制度は、市民の力を活用して博物館の使命の一部を支えている。市民に自ら学ぶ場を提供し、地域づくりの貢献に関心のある人材育成・発掘が重要であると思う。
- ・直ちに“そではく”のような制度はできないと思うが、市民大学校のまちづくり学部ふなばしマイスター学科を活用するなどし、博物館「友の会」設立・運営など、何かきっかけ

を作ることが重要であると考える。

- ・市民学芸員制度がそのまま船橋市で使えるかどうかはわかりませんが、ふなばし市民大学校を卒業された方が博物館と関わり、小学校への出張授業をできるようになるとよいと思う。

【3】他に視察を希望する施設について

- ・昨年秋にオープンした市原歴史博物館
- ・具体的な施設ではないが、地域や小学校との取り組みを積極的に行っている施設。